

第685回番組審議会報告
2024年2月6日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長、川瀬慈委員（書面）、木戸哲委員、
小島幸保委員、津村記久子委員、増山実委員、安田真奈委員

■毎日放送出席者

虫明社長、宮田副社長、高山常務、酒井取締役、北野取締役、中野取締役、
岸本制作局長、長尾担当局長、中村卓也チーフプロデューサー、
柴田コンプライアンス局長、中西番組審議会事務局長

◆審議事項

テレビ番組「日曜日の初耳学」 King Gnu×林修
(2023年11月26日(日) 22:00~22:54放送)

【概要】

インタビュアー林修#96 King Gnu 編
<VTR 出演> 林修、King Gnu、椎名林檎
<スタジオ出演>林修、大政絢、大家志津香、澤部佑、中島健人、田村淳、
とよた真帆

現在番組のメイン企画である「インタビュアー林修」に大人気のロックバンド King Gnu をゲストに迎え、個性あふれる彼らのプロフィールに触れながら、音楽のルーツや楽曲制作の方法、メンバーの人間性や関係性など掘り下げるだけでなく、現代文講師の林修ならではの視点で歌詞を分析するなどして、多面的に人気の秘密を徹底解剖しました。なおメンバー4人揃ってバラエティ番組に出演するのは初めてとなり、地上波放送はもちろんですが、TVer の見逃し配信では通常の5倍近くの再生回数となる27万超を記録するなど大きな話題を集めました。

【各委員の主な意見は次の通り】

*King Gnuと林修という組み合わせがうまく絡み合うのかと疑問に思ったが、とても楽しく、両者のよさと誠実さが引き出されていて好感を持った。

*ヒットしているミュージシャンが、裏でどれほど努力を積み重ねているかと

いうことがとてもよく引き出されていた。

*メンバー4人それぞれの個性やこだわりをうまく引き出していた。「自信がないということは決して悪いことではない」という言葉は、このバンドのファンだけでなく、若い人たちの多くに響くとてもいいメッセージだと思った。

*林先生が「音楽がダメなんだよな」とか「クラスではやっているのに乗れない」と言っていたが、音楽に対してどんな疎外感があったのか聞きたかった。スタジオで林先生にその話を振ってあげてほしかった。

*ゲストの情報がきめ細かく興味深いところも多かったが、ゲストと対峙する出演者側の熱があまり感じられなかった。林さんが本音を漏らした時に、台本をさらに越えて行こうという感じがあればもっと面白くなつたのではないか。

*K i n g G n uが自分がやりたいものと世間が求めているものとの間に乖離があると言ったことに対して林さん自身の考え方をもっと聞きたかった。

*この回に限って言えば、スタジオのゲストは必要だったのかという感じがする。リアクションよりも、林さんとK i n g G n uのやり取りを少しでも多く見たかった。

*出演者の皆さんがスタジオで自分が思っていることをそのまま言えるという空気になっているのかどうかが気になった。

*歌詞の分析は面白かった。この歌詞は一体何?と突っ込んでいくことによって、若い人たちも言葉に敏感になるきっかけのコンテンツになるんじゃないかな。

*林先生の歌詞分析は面白かった。独断と偏見でいいので、林先生がバンドの歌詞から想起する世界や文学作品についてもっと聞きたかった。

*歌詞の分析は、ミュージシャンに対して解釈について「これって正解ですか」と聞くのは少しどうかと感じた。

*番組名と内容がちょっと合わなくなっているのではないか。初期と違って完全にインタビュー主体の番組になっているので、番組としていいのかなと思う。

*売れる音楽を作るためにJ－P O Pの研究をしたと言っていたが、研究した結果がどういう部分に表れているのかもっと知りたかった。

*「少年ジャンプ」と椎名林檎さんが言った表現が何を意味しているのか、もう少し説明が必要だったのではないか。

*ワイプの中に林先生が出るのがわかりにくい。番組の終盤で林先生とスタジオのゲストとの掛け合いがあると、後で振り返りながら林さんも一緒に見てるということがわかりやすくなると思う。

【番組制作側の説明、質問への回答】

- * ミュージシャンをこのような番組で扱う時には、まだまだもっと面白く見せる方策はあるんだろうと思って、日々検討している。
- * 準備し過ぎると破綻せずある程度は面白くなるが、突出することがない。現場で面白くする筋肉が減っているのかもしれない。現場でどうすれば準備したもののがより面白くなるのかを意識して、林さんに対する向き合い方も含めて考えたい。
- * スタジオのワイプやスタジオゲストの使い方に関しては、検討課題として制作スタッフ内でより議論を深めていきたい。

以上